



民主党政権のもとで農業はどうなる...

農業を考えるシンポジウム

最初にあいさつされたJA草津組合長は、「私は、自民党員ですが」と前置きしながら、JA全国中央会の全国大会に招かれた日本共産党の志位和夫委員長のあいさつに、大きな共感の拍手が沸き起こったことを紹介し、「日本の農業を守るために、ともに考えたい」と語りました。

パネリストとして話していただいた、守山市で80頭の牛を飼育しながら13畝の稲作をされている認定農家の勝見友男さんは、民主党政権のもとで4月からはじまる米戸別所得補償モデル事業の問題点とともに、FTAの問題、減反しながら77万トン（これは北海道の生産量より多い）の米を輸入していること、湖南地域において、基幹産業である農業をどのような形で展開するのか、など多岐にわたる視点で話されました。また、行政側から草津市産業振興部長の西村博次さんにパネリストとして参加いただき、草津市の農業の現状や農業設備の維持管理について話をいただきました。

守山市長からのメッセージ

本日、今後の日本の農業を考える「シンポジウム」が開催されますことは、まことに時宜を得た、意義深いものであると感じております。（中略）

しかし、こうした機能や価値などは農業の発展、農産物の価格等には反映されず、わが国は農業所得の減少、後継者不足、食料自給率の低迷など様々な課題を抱えています。

このような課題を解決するには、本日のシンポジウムのように地域でも多くの議論と検討を行うことが必要であり、消費者をはじめとする多様な主体が農業・農村の有する魅力を深く理解し、また価値を共有し、それを支えていくことの必要性を認識することが需要であると考えております。本日の党派を超えたシンポジウムが農業・農村の課題を解決するきっかけとなることを期待しております。

3月20日、日本共産党湖南地区委員会の主催で「民主党政権のもとで農業はどうなる...」をテーマに、「農業を考えるシンポジウム」が開かれました。会場のJA草津本店大会議室は、湖南地域の農業従事者や農業委員、JA職員や行政職員など120名が集まり、熱気にあふれました。守山市長をはじめ、草津・野洲市長からもメッセージが寄せられました。

「私は自民党員ですが」と前置きして...

守山市議会3月定例会 閉会

2月23日から開かれていた新年度予算案などを審議する守山定例市議会は、3月23日閉会しました。注目を集めていた「2年連続で国民健康保険税の値上げしようとする条例改正案」は、賛成14、反対7で可決されましたが、議会後、会派ごとに行う市長の挨拶で「今後、一般会計の繰り入れも考えざるを得ない」ことにはじめて言及するなど、市民の声が市政に届く条件が生まれた議会でした。今議会には32の議案が出されましたが、日本共産党の小牧一美議員は、市民の立場から積極的に発言し、討論しました。詳細は、3月議会報告でお伝えします。おもな議案、意見書、請願に対する各議員の態度は下記の通りです。

国保税
2年連続値上げ

賛成14 反対7で可決

賛成	反対	政和会							創政会		ネットワーク未来(民主)			公明党		無							
		小牧一美	小原敬治	池田真二	田中国男	寺田武正	中島幸一	中野隆三	西村利次	笹井昌彦	森貴尉	藤木猛	赤井清司	高田正司	本城政良		富樫孝	奥野真弓	下村勲	山川明男	大瀬洋子	渋谷成子	広実照美
	議長 岩佐弘明																						



宮本たけし
衆院議員 来たる

4/2(金) 7:00より 守山市民ホール小ホール

日本共産党演説会

日本共産党

守山民報

守山市議会議員
こまき一美

党守山市くらし対策責任者
まつば栄太郎

TEL・FAX 582-3785
http://komaki.jcp-web.net/

TEL 584-3077
FAX 584-3466